

2022年度 第1回6月阪大本番レベル模試地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。
- ② 下線の付け忘れは1点減点。
- ③ 指定用語不使用は1点減点。
- ④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば1点加点する。
- 5) [指定語句] は、文中のどこかで使用していれば減点しない。

(I) 配点 50 点

問1 20点

多くの発展途上国の人口ピラミッドが、年齢の上昇とともに急激に人口数が減るAから、緩やかに減るBの型に変化したのは、医療の進歩と衛生状態の改善で乳幼児や若者の死亡率が下がり、多産多死から多産少死に移行して平均寿命が延びたためである。多産少死となって人口爆発が生じた発展途上国では、余剰労働力の増えた農村から大都市への移住が活発化し、人口が肥大化した大都市では、インフォーマルセクターやスラムが急増した。

【加点ポイント】

i) 変化について (10点)

- ① 多産多死から多産少死へと変化した →4点
(※「多産少死になった」「平均寿命が延びた」「死亡率が下がった」のみ →2点)
- ② (①の要因) ・医療の進歩／診療所の整備／治療薬の普及 →2点
・衛生状態の改善／水道の普及／トイレの普及 →2点
- ③ (①の結果) 人口爆発が起きた／人口が急増した →2点

ii) 途上国の都市問題について (10点)

- ① 大都市の人口肥大が起きた／大都市に人口が集中した →3点
- ② (①の要因) 農村の余剰労働力の流入／農村から①へ移住する人が増えた →3点
- ③ (都市問題の具体例) ・インフォーマルセクターの増加／失業者の増加
・治安の悪化
・スラム (ホームレス／ストリートチルドレン) の増加
・住宅の供給不足
・インフラ (上下水道／電気／道路) 整備が追いつかない } 1つ2点
4点まで

問2 15点

第二次世界大戦中は、夫の出征や生活苦から多くの夫婦が出産を控えた。Xの世代は、その反動で日本の出産数が急増した終戦直後から数年間の、第一次ベビーブームと呼ばれる時期に生まれた人々である。また、Yの世代は、Xの世代が結婚適齢期、出産適齢期に達した、第二次ベビーブームと呼ばれる時期に生まれた人々である。

【加点ポイント】

i) Xの世代について (9点)

- ① (生まれた時期) 終戦直後からの数年間/1940年代後半 →3点
- ② (①の背景) 戦時中は男性が出征していた/戦時中は出産が少なかったことの反動 →3点
- ③ (①の名称) 第一次ベビーブーム →3点

ii) Yの世代について (6点)

- ① (生まれた時期) Xの世代が結婚(出産)適齢期に達した時期
/Xの世代の子どもが多く生まれた時期 →3点
- ② (①の名称) 第二次ベビーブーム →3点

問3 15点

開発初期のニュータウンには、当時働き盛りであったXの世代と、その子供であるYの世代が一斉に入居した。近年、Xの世代が定年退職の時期を過ぎて勤労者が激減したことで、ニュータウンでは税収減等の問題が生じた。また、Yの世代が学齢を過ぎたことで彼らのために建てた学校の数が過剰になり、学校の統廃合が急増した。

【加点ポイント】

i) ニュータウンの特徴について (3点)

- ① Xの世代と、その子供であるYの世代が一斉に入居した
/入居者がX世代に偏っている →3点

ii) Xの世代に関わる問題について (6点)

- ① 税収の減少/住民税が減った →3点
- ② (①の背景) Xの世代が定年退職の時期を迎えた →3点

<別解>

- ① バリアフリー対策/買い物難民対策/独居の高齢者の見守り対策 →3点
- ② (①の背景) 高齢化の進行/Xの世代だけが残った →3点

iii) Yの世代に関わる問題について (6点)

- ① 学校数が過剰になった/学校の統廃合が必要になった →3点
- ② (①の背景) Yの世代が学齢を過ぎた/Yの世代以降、子どもの数が増えない →3点

(II) 配点 50 点

問1 15 点

テンサイは砂糖の原料となる根菜であり、砂糖大根とも呼ばれる。冷涼な気候下でも育つため、サトウキビが育たない温帯の高緯度側や冷帯で栽培が盛んである。糖液を得たあとのしぼりかすや葉と茎が牛や豚等の家畜の優れた飼料にもなるため、ヨーロッパ、ロシア、アメリカ合衆国の混合農業地帯や酪農地帯で特に生産量が多い。

【加点ポイント】

i) テンサイの用途について (6 点)

① 砂糖 →3 点

② 飼料/家畜のえさ →3 点

ii) テンサイの栽培地域について (6 点)

① 冷帯/温帯の高緯度側/冷涼地域/低温でサトウキビが栽培できない地域 →3 点

② (①の具体例) ヨーロッパ/ヨーロッパ中北部

/ロシア/フランス/ドイツ/アメリカ合衆国/トルコ →3 点

iii) その他 (3 点)

- ・根菜である/砂糖大根とも呼ばれる
- ・(糖液の)しぼりかすが飼料となる/葉や茎が飼料となる
- ・混合農業地帯/酪農地帯 多く栽培される
- ・糖分の少ない品種は飼料用ビートになる

} いずれかで 3 点

問2 15 点

遺伝子組み換え作物は害虫または除草剤に強く、繊維用作物の綿花や、主に飼料や油脂原料にされる大豆、トウモロコシ、菜種などの農産物で導入が進んだ。研究開発が進むアメリカ合衆国と同国系の農業企業が進出した南アメリカで特に普及したが、安全性を不安視する人が多いヨーロッパには未導入国が多く、日本も同様である。

【加点ポイント】

i) 長所について (6 点)

- ・害虫に強い
- ・除草剤に強い
- ・日持ちが良い
- ・乾燥に強い

} 1つ3点 6点まで

ii) 主な農作物 (4 点)

・綿花・大豆・トウモロコシ・菜種・テンサイ →1つ2点 4点まで

(次ページに続く)

iii) 普及の地域的差異 (5点)

- ① (普及が進んだ地域) アメリカ合衆国/南アメリカ/ブラジル/アルゼンチン →2点
- ② (①の背景) アメリカ合衆国で研究開発が進んだ
/米国企業が南米(ブラジル・アルゼンチン)に多く進出した →1点
- ③ (普及しない地域) ヨーロッパ/日本 →1点
- ④ (③の理由) 安全性を不安視する人が多い/健康への影響を懸念 →1点

問3 20点

シャントン半島はペキン、テンチン、ナンキン、シャンハイ等の中国国内の複数の大都市の近郊にあり、新鮮な野菜をそれらの巨大市場へ低コストで輸送できる。また、日本への輸出に適した東部の沿岸に位置するため、野菜の生産を助成して輸入する日本企業もいくつか進出した。一方、温暖なフロリダ半島は野菜の促成栽培に適し、冬に野菜の生産が減る冷涼地域のニューヨーク、シカゴ等の大都市に野菜を供給する、輸送園芸が発達した。

【加点ポイント】

i) シャントン半島について (10点)

- ① (地理的利点) 大都市の近郊である/大市場に近い →3点
- ③ (①により) 近郊農業が発達/新鮮な野菜を巨大市場へ低コストで輸送できる →3点
- ④ (地理的利点) 日本に近い/日本への輸出に便利 →2点
- ⑤ (④により) 野菜を生産・輸入する日本企業が進出した
/日本に輸出するための野菜栽培が増えた →2点

ii) フロリダ半島について (10点)

- ① (気候的利点) 温暖/気温が高い →2点
- ② (①により) 促成栽培が可能/野菜の生産が減る季節に出荷できる →3点
- ③ (②により) 輸送園芸/遠郊農業/トラックファーミング が発達 →3点
- ④ (③の市場として) 冷涼地域/アメリカ合衆国北部/東海岸北部
/ニューヨーク/シカゴ →2点